

COMMUNICATION MAGAZINE

The KPUM TIMES

vol.06

March 2021

京都府立医科大学の「いま」を伝える広報誌



京都府公立大学法人
京都府立医科大学
KYOTO PREFECTURAL UNIVERSITY OF MEDICINE

京都府立医科大学の「いま」を伝える広報誌

COMMUNICATION MAGAZINE

The KPUM
TIMES

vol.
06

CONTENTS >>

特集

03 | 京都府立医科大学の
研究力

04 | 最先端研究紹介

大学昇格100周年に寄せて

08 | 記念座談会

未来へ向けて思うこと

11 | 大学昇格100周年に向けて

大学昇格100周年 記念事業準備・実行委員会

12 | 産学公連携最前線

13 | 卒業生からのメッセージ

松村宇治市長

写真で見る

14 | 京都府立医科大学2020

15 | 大学からのお知らせ

寄附者銘板の設置について

16 | 創立150周年に向けて



対岸の桜並木からながめた
京都府立医科大学

鴨川の風景は四季折々で変わりますが、
桜の季節は特別美しい姿を見せてくれます。

京都府立医科大学の研究力

研究部長(統合生理学教授) 八木田 和弘

京都府立医科大学の「研究力」について改めて考えたとき、皆さんはどのような言葉を思い浮かべるでしょうか？

「臨床研究による社会実装の推進」「産学連携による治療薬開発」「医師主導治験」などを一番に想起する人が多いかも知れません。また、「新たな生命原理の発見」「教科書に載る基礎研究」など医学の進歩に寄与する基礎研究をあげる人もいます。両極端に見える研究観ですが、医学の本質を突き詰めれば、この両者は一本の真理という道でつながっていることに気づきます。

歴史的に見ても本学では、「神経発生の基本原理」「インターフェロンの生成」「機能形態学の確立」など現在でも世界で高く評価され続けているオリジナルの基礎研究とともに、「内視鏡治療法の開発」「腎移植」「がん」「小児医療」「前立腺エコー」などの多くの臨床医学分野で間違いなく我が国を牽引する医学・医療を創出してきました。

多岐にわたる際立った個々の研究を包み込む懐の深い研究観こそが、本学の「研究力」と言えるのではないのでしょうか。次のページからの「最先端研究紹介」を読んでいただければ、私が申し上げていることの意味を必ずや納得していただけると確信しています。

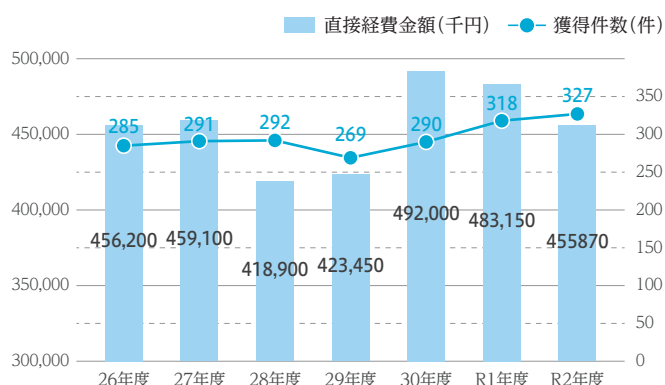
研究費獲得状況

京都府立医科大学は、全国有数の科研費獲得額を誇り、令和2年度は327件計455,870千円の研究費を獲得しました。(件数・金額は交付内定時)科研費以外にも日本医療研究開発機構(AMED)や科学技術振興機構(JST)等の公募にも応募し、幅広い分野で研究を行なっています。

次のページからは今研究が進んでいる本学の最先端研究4事例を紹介します！



文部科学省科学研究費の推移



※件数・金額は交付内定時点とする。

※平成29年度以降は、挑戦的研究及び新学術領域研究の内定時期が6月となるため個別に計算し記載している。

令和元(2019)年度科研費獲得状況

教員1人当たり配分額

3,103千円

全国784大学中

第10位

公立大学92大学中

第1位

全国医系単科大学

(医学部+看護学部含む)24大学中

第1位

* 出典:朝日新聞出版 2021年版 大学ランキング

最先端研究紹介

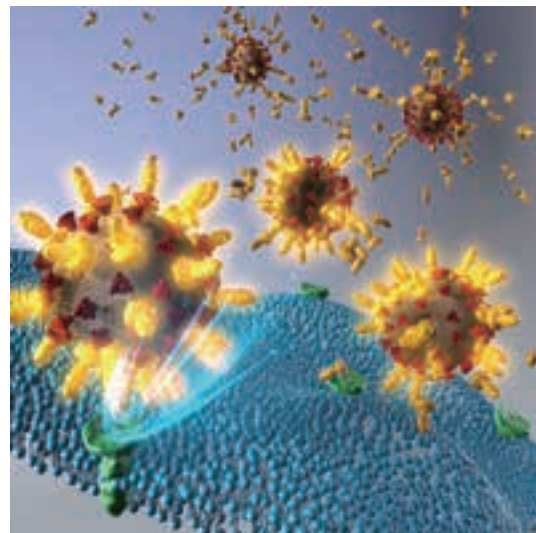
ACE2蛋白を工学的に進化させ
新型コロナウイルスに打ち勝つ！

| 所属教室 循環器内科学
| 研究代表者 星野 温
| 所属教室教授 的場 聖明

| 研究内容紹介文

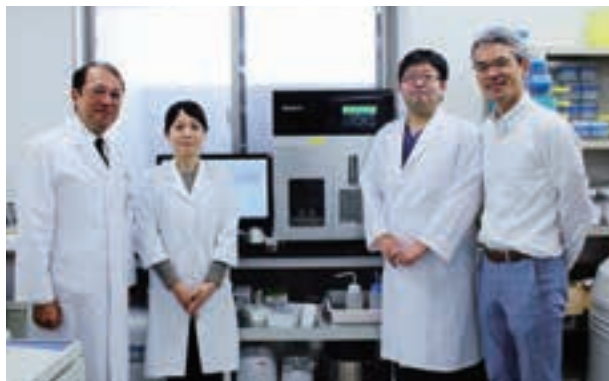
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の脅威は日々増大し、最近では種々の変異株が出現し、一部の変異株では感染力が高まっていると考えられています。さらに今後はワクチンや治療薬に対しても耐性をもつ変異株が出現するのではと懸念されています。現在までにCOVID-19治療薬として新たに開発されたものは中和抗体製剤のみで、2つの薬剤が臨床試験で有効性が認められ海外では既に使用されています。しかし抗体製剤は単剤での使用では早期に耐性株が出現すると考えられ、さらにカクテル製剤(2種類の抗体からなる製剤)においても耐性株のリスクが報告されています。そこで私たちは薬剤耐性株出現の問題を克服する新たな治療薬を開発しました。新型コロナウイルスがヒトに感染する際に結合する細胞表面のACE2という蛋白を利用して、効率よくウイルスを中和できる改変ACE2製剤です。ウイルスが遺伝子変異によりこの改変ACE2製剤と結合しなくなると、細胞表面にあるACE2とも結合できなくなり、感染力自体も失うため実質的に薬剤耐性変異が問題になりません。すなわち一度開発すれば変異株の心配なく、COVID-19を克服するまで使い続けることができます。

実はACE2はもともとウイルスが結合する蛋白ですが、そのままでは製剤にできるほどウイルスとの結合力は強くありません。そこでACE2蛋白にアミノ酸変異を加えて、ウイルスへの親和性を高めることに取り組みました。研究方法としてはACE2蛋白に10万種類のスケールでランダム変異を入れ、ウイルスへの結合力が高まったものを回収してきます。そして回収した変異蛋白にさらにランダム変異を加え、そこからさらに親和性の高まったものを回収する作業を繰り返します。言わば試験管内で蛋白を進化させるような手法で「指向性進化法」とも呼ばれ、2018年にはノーベル化学賞を受賞した画期的な技術です。今回はこの技術と独自に開発した評価スクリーニング系を組み合わせ、ウイルスとの結合力を100倍高めた改変ACE2蛋白の開発に成功しました。この改変ACE2製剤は期待通りハムスターのCOVID-19モデルで圧倒的な治療効果が確認されたため、現在は企業と共同で前臨床試験に取り組んでいます。



所属教室教授のコメント

「この製剤を、安全にヒトへ投与し普及させることができれば、世界を脅かしているCOVID-19に終止符を打つことが期待されます。」



写真左から、的場先生、池村先生、樋口先生、星野先生

肺がん分子標的薬の抵抗性に対する新たな治療法を開発

| 所属教室 呼吸内科学
| 研究代表者 山田 忠明
| 所属教室教授 高山 浩一

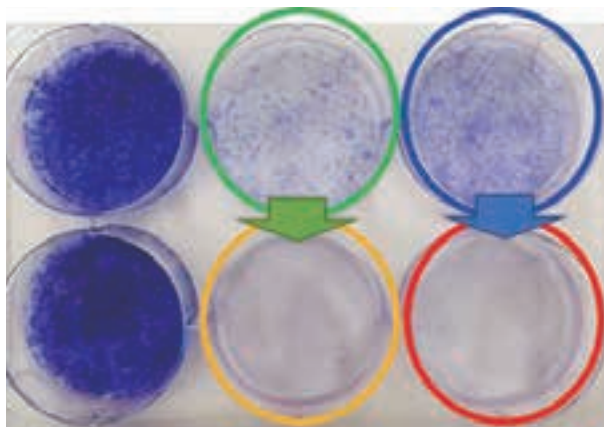
| 研究内容紹介文

我が国においてがんの死亡原因トップである肺がん患者の約25%はEGFR(イージーエフアール)と呼ばれる遺伝子に変異し異常に活性化しています。そのような患者さんに対する治療薬として、がん分子標的薬であるEGFR阻害薬が開発されました。このEGFR 阻害薬による治療は高い確率で効果があるものの、一部のがん細胞が死なずに生き残り、最終的に耐性を獲得して再び大きくなることが問題となっています。

今回の研究では、新世代のEGFR阻害薬であるオシメルチニブやダコミチニブにさらされたがん細胞が生き残る原因であるAXL(アクセル)という蛋白質の活性を阻止する新規治療薬ONO-7475の有効性を明らかにしました。がん細胞がAXLという蛋白質をたくさん作っている患者さんには、最初からEGFR阻害薬とAXL阻害薬ONO-7475を一緒に使って治療を行うことが有用であり、EGFR阻害薬の効果がなくなった後から併用してもあまり効果は期待できないことが考えられます。以上の研究結果から、2つの薬を最初から併用することで、がん細胞を死滅させ、肺がんを根治あるいは再発までの期間を大幅に延ばせることが期待されます。

本研究で使用したAXL阻害薬ONO-7475は現在、早期臨床試験が日米で進められています。今後は、EGFR遺伝子変異を有する肺がん患者さんのうちAXL蛋白質が高発現している方を対象に、新世代EGFR阻害薬と併用する臨床試験を行い、効果や安全性について評価していきたいと考えています。治療効果が乏しい肺がん患者さんの治療成績を向上させることができれば社会に大きな貢献が期待されます。

新世代EGFR阻害薬とAXL阻害薬の併用効果



無治療	EGFR阻害薬1	EGFR阻害薬2
AXL阻害薬 (ONO7475)	EGFR阻害薬1 との併用治療	EGFR阻害薬2 との併用治療

写真の中では、生き残ったがん細胞を青色に染めています。新世代EGFR阻害薬のみを使った場合に比べて、AXL阻害薬を併用することにより、がん細胞をほぼ死滅させることが分かります。

掲載論文:

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/31953310/>



所属教室教授のコメント

「肺がん細胞へ先制攻撃 AXL阻害薬の併用でさらに高い効果」

写真左が高山先生、右が山田先生

最先端研究紹介

「不安」を和らげるニューロン

| 所属教室 解剖学教室
生体構造科学部門

| 研究代表者 山田 俊児

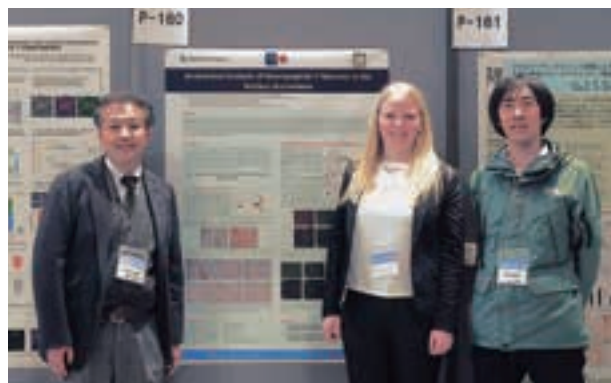
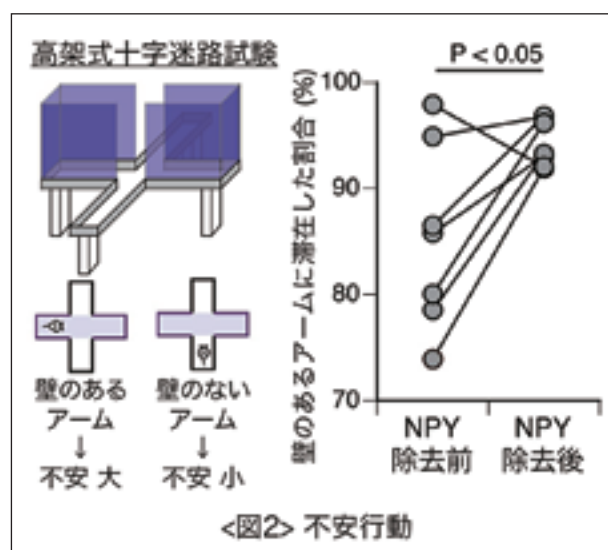
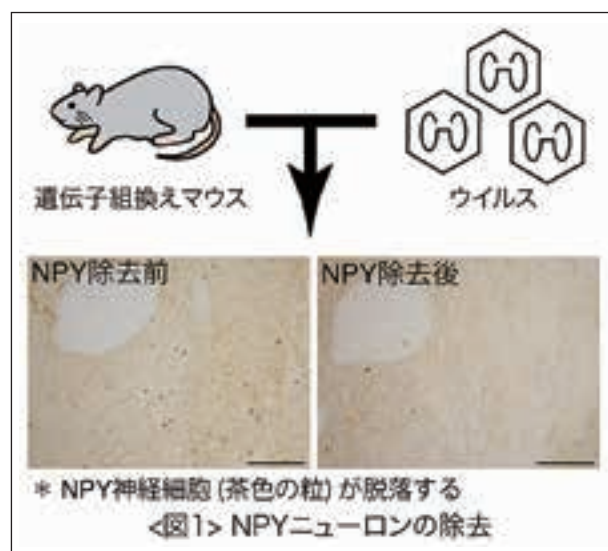
| 所属教室教授 田中 雅樹

| 研究内容紹介文

ストレス社会と言われる現代において、ストレスによって引き起こされる「うつ」や「不安症」といった気分障害に苦しむ人は年々増加しています。しかしながら、現在の治療や投薬は、その効能に制限があり、すべての患者にとって効果的な処方とはなっていません。そのため、気分障害の仕組みに関してより深い知識を得ることや新規の対処法のターゲットを調査することは大変重要です。

我々は以前、うつ症状を示すマウスでは、やる気や報酬系に関わる脳部位である側坐核においてNeuropeptide Y(NPY)という神経ペプチドが少ない事を発見しました。今回の研究では、遺伝子組換えマウスと病原性のないウイルスを用いて、側坐核に存在するNPYを産生するニューロンだけを後天的に除去したマウスの作製に成功しました(図1)。マウスの不安行動を調べる高架式十字迷路試験を行ったところ、側坐核のNPYニューロンを除去する前に比べNPYニューロンを除去した後において、壁のあるアームでの滞在時間が長くなる、つまりマウスの不安が高まることを発見しました(図2)。逆に、側坐核のNPYを産生するニューロンだけを人為的に活性化すると不安行動が減少しました。これらの事は、側坐核のNPYニューロンの活動が不安を和らげる働きを持つ可能性を示しています。

本研究の成果は、2020年5月、Experimental Neurology誌に掲載されました。さらに研究を続けることで、気分障害を引き起こす仕組みの解明や、より効果的な新しい治療法の探索に貢献できると考えています。



所属教室教授のコメント

「コロナ禍で不安を感じる人が増えている現在の社会情勢下で、抗不安に働く神経系の研究は有意義なものと考えます。」

写真左から、田中先生、マーストリヒト大学からのDDP留学生Nienkeさん、山田先生

大脳皮質の進化に貢献した 神経細胞の「かたちの変化」を発見

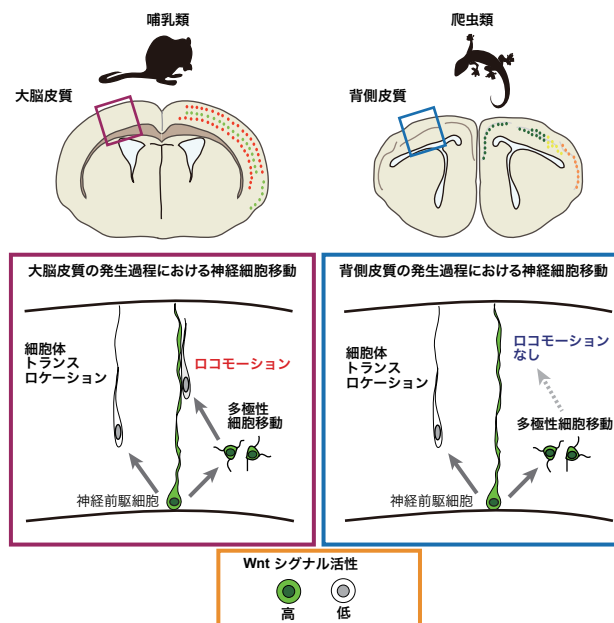
| 所属教室 神経発生生物学
| 研究代表者 野村 真
| 所属教室教授 小野 勝彦

| 研究内容紹介文

ヒトを含む哺乳類の大脳皮質は6層の層構造を構築します。層を構成する神経細胞は胎児期に脳の内側から外側へと移動しますが、その際に細胞の形態を大きく変化させます。こうした大脳皮質の6層構造や神経細胞の移動様式が進化の過程でどのようにして出現したのかは謎に包まれていました。本研究では、哺乳類と爬虫類の脳の発生過程における神経細胞の移動様式を比較し、以下のような成果を得ました。

- 1) 哺乳類と爬虫類の脳の形成過程における神経細胞の「かたちの変化」とその分子メカニズムに共通点があることを発見しました。これは両者の共通祖先の脳がすでに同じような作られ方をしていたことを示唆しています。
- 2) 一方、哺乳類脳の形成過程でしか見られない独特の神経細胞のかたちの変化が存在することも見出しました。この神経細胞のかたちの変化は、哺乳類の進化の過程で独自に獲得されたものと推測されます。
- 3) 神経細胞のかたちの変化によって、哺乳類に特徴的な大脳皮質の6層構造の形成や脳表面積の拡大が起こったと考えられます。これはヒトを含めた哺乳類における高度な知性の獲得につながった進化のブレイクスルーであったと予測されます。

神経細胞移動の異常に起因する脳の先天性疾患の多くが神経細胞のかたちの変化に関連しており、本研究の成果はこうした疾患の原因に関する進化医学的な理解を与えるものです。また神経科学分野における進化の研究は、遺伝学や生化学、薬理学、心理学など、生命科学の広範囲における研究基盤となるものです。本研究の成果をより発展させることにより、脳の先天疾患の原因究明や新たな治療方法の開発に貢献することが期待されます。本研究の成果は科学雑誌「Cell Reports」(2020年5月6日付)に掲載されました。

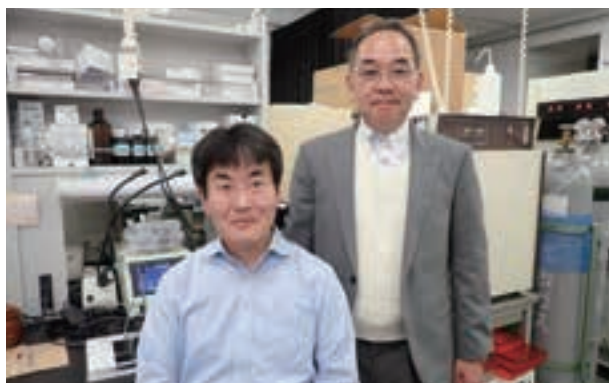


<図> 哺乳類と爬虫類の脳発生過程の比較

哺乳類の大脳皮質の発生過程では、神経細胞の移動様式として3つのモードが存在します。

- 神経前駆細胞が持っていた突起をそのまま受け継ぎ、突起を縮めながら細胞体が脳の表層に移動するモード(細胞体トランスロケーション)
- 神経細胞が複数の短い突起を様々な方向に伸ばしつつ移動するモード(多極性細胞移動)
- 神経細胞の形態が双極性に変化し、近傍の神経前駆細胞の放射状突起を足がかりとしながら脳の表層に向かう移動モード(ロコモーション)

このなかでロコモーションは哺乳類の脳形成過程でしか見られないことを発見しました。



所属教室教授のコメント

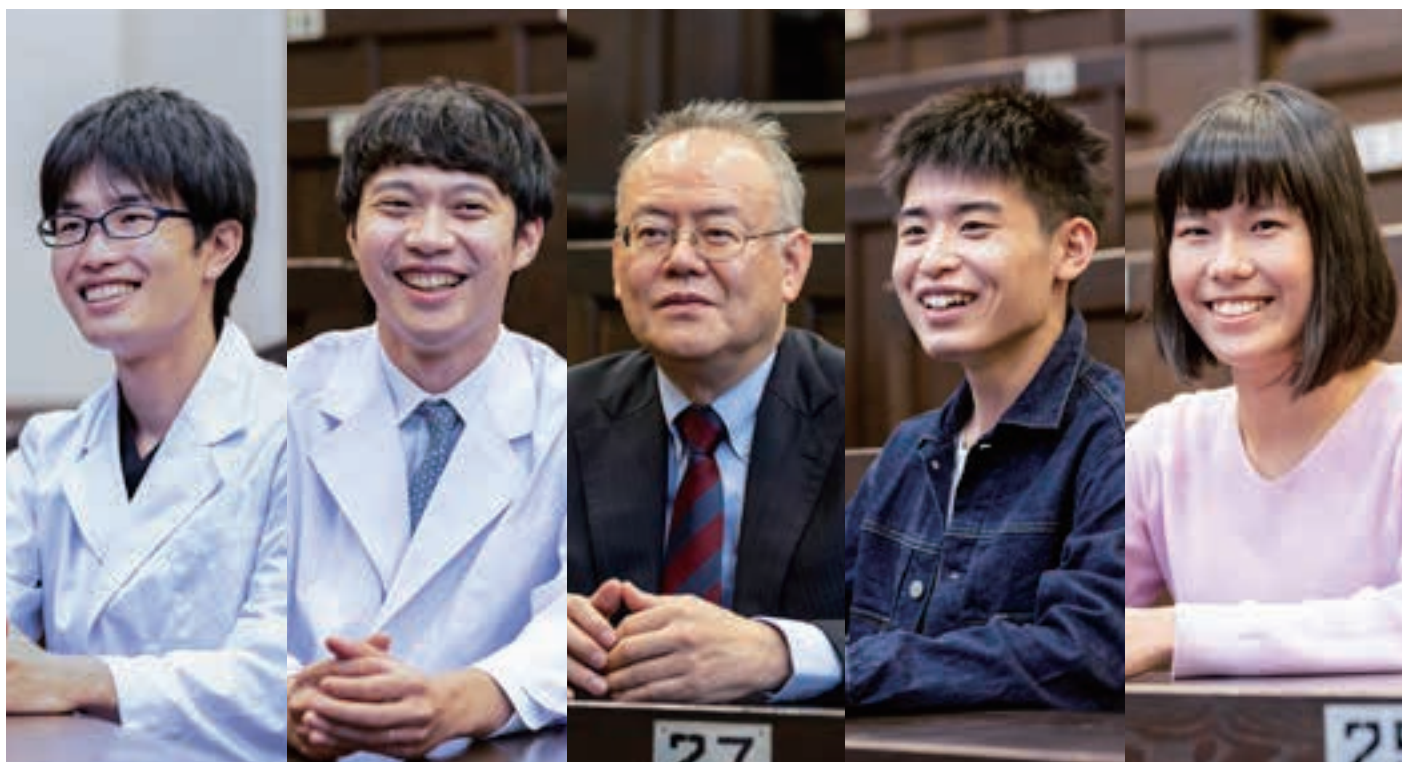
「野村准教授は独自の視点で進化発生生物学に実験形態学的手法を導入して、大脳皮質ができた仕組みを解明しつつあります。」

写真手前が野村先生、後ろが小野先生、下鴨キャンパスにて

大学昇格 100 周年に寄せて

記念座談会 未来へ向けて思うこと

京都府立医科大学は1921(大正10)年10月19日、京都府立医学専門学校から大学へと昇格し、来年で昇格100年目を迎えます。さらに2022年は創立150年の記念の年。大きな節目を前に、学生たちとともに本学の過去と未来を語り合います。



提灯行列も出た大学昇格

奥田 今日は集まってくれてありがとうございます。ところでみなさんは、本学が大学に昇格したときのいきさつや出来事をどれくらいご存じでしょうか。

藤野 さっきもその話をしていたのですが、恥ずかしながら私もそうですけれど、大学昇格時の話はよく知らないという学生がほとんどではないかと。創立時のこと、まず病院が設立されてヨーロッパから3人の名医を呼び、彼らが医学教育も行ったという話はよく聞のですが。

奥田 ではかいつまんでお話ししましょう。日本では帝国大学が創設されたあと、1918年に私立や公立の専門学校などを大学にしようという大学令ができ、順次、

大学に昇格していきました。ところが本学は、隣に京都大学があるということもあり、なかなか昇格が認められず、学校、府民をあげて大学にしてほしいという運動がおこり、文部省(現・文部科学省)より、では、法医学教室と薬物学教室を作り、病理学教室と外科学教室をもうひとつずつ増やし、精神病棟を学外に建設して移転し、それから予科を作ってください。これを全部クリアしたら考えましょう、という条件が出ました。

寺谷 あ、すみません。予科って今でいう教養課程のようなものなのですか？

奥田 それに近いですね。教養課程と言うようになったのは戦後のことだけれども。少し横道にそれますが、それまでの学生というのは中学校5年のあとに専門学校に



奥田 司

大学昇格100周年記念事業
準備・実行委員会委員長



藤野 雄三

大学院1年生 脳神経内科学

行くわけです。帝大の場合は少し違って中学を4年で飛び級し、京都なら京都三高に入り、その後京都帝大へというのが俗にいうエリート。その旧制高等学校に匹敵する教養教育の場が予科で、うちの予科なら卒業後にうちの本科に進み、医師になるというのが既定路線でした。

安藤 思い出しました、今の花園学舎が元予科で、あのライオン像は昇格記念に作られたとか。

奥田 そう。なぜライオンだったか、我々が百獣の王だと言いたかったのかどうかはこれから掘り起こすとして(笑)。あの土地はOBがお金を出し合って購入したんですよ。で、今の体育館のあるところが精神病棟。河原町側では精神医学教室が転出した後の構内に法医学教室や病理学教室などを作って、ようやく1921年10月19日に大学昇格が認可されました。大学の1期生を迎えたのは翌年の4月。これが大学創立の1872年から数えると50年目にあたるといので、同年11月1日に創立50周年と大学昇格の大式典を行い、夜には職員・学生による提灯行列も出たそうです。

北本 OBや府民の方々の大学昇格に寄せる熱い思いが伝わってきますね。在校生としても身が引き締まります。

奥田 何しろ敷地面積の小さな医科大学で、今でもスペースについては困る場面が多いようですけど。土地を何とかして手に入れた苦労や、大学に昇格して本当にみんなが喜んだということを忘れないためにもささやかなでも催しをしたいと思い、100周年の記念式典を来年の2021年10月23日に予定しています。都合がつけばみなさんもぜひ参加してくださいね。

身近に息づく歴史の証し

藤野 先生のお話から、本校は先人の喜びとともに期待を背負ってきた大学であることを再認識しました。ふと考えると京都、関西の各地域には府立医大出身のドクターがとても多いんです。知り合いのドクターは三代で本学出身。府立医大は「世界トップレベルの医学を地域へ」が使命ですが、地域に還元するぞという根本の考え方の潮流が目に見えて息づいているのを感じます。

安藤 私は大阪出身ですが、子どもの頃お世話になった小児科の先生が本校出身でした。OB・OGの多さが歴史の証明ということも確かにありますよね。

寺谷 実は僕がこの大学を選んだ理由のひとつが、歴史のあることでした。キャンパスの建物にも重ねてきた時間の重みを感じます。

北本 ここみたいに昔ながらの階段教室もあって。絵になりますよね。

奥田 昔の医学部の臨床講義棟はこういう教室が多かったですね。

安藤 身近に歴史が感じられ、ほどよい大きさで学生同士、ひいては先人たちを含めて人と人とのつながりをすごく感じられる。この大学自体が京都という町に似ているのかも。

北本 なるほど。京都といえば、私はこの学校のロケーションが大好きなんです。鴨川が流れ、御苑が近くて。京都の自然を満喫できます。大学になる前の病院を、よくぞこの地に移してくれたと先人たちに感謝です(笑)。

医療の未来へと糸を紡ごう

奥田 これからはみなさんが京都の、日本の、世界の医学の担い手となり、本学の次の歴史を作っていくことになるわけですが、そのことについて今、どういう風に考えていますか？

寺谷 医学についてまだ何も学んでいませんので具体的なことを思い描くのは難しいですが、何か貢献できることはないかを常に考える姿勢を持ち続けたいと思っています。

奥田 一人一人が頑張ってくれたら、それがこの大学の歴史そのものになる。何ができるかを考え続けることはとても大事だと思いますよ。

北本 個人としては一段一段階段をのぼりレベルアップを目指し続けるということですが、こういう節目の時期に在籍をし、歴史について考える機会に恵まれている世代として、その意識をより強くできるように感じています。歴史ある大学の一員なんだということを忘れずにやっていければ、それが誇りや勇気となり、何かしらの貢献につながるのではないかと思います。



安藤 新人

医学科5年生

大学昇格 100 周年に寄せて



北本 佳誉

医学科4年生

安藤 私は公衆衛生や感染症について関心があり、その分野で国際貢献をするという目標があります。もしかしたらそれは地域貢献という府立医大の軸とは少し違うのかもしれませんが、総体的に世界から日本を見、地域を見て、外から発信し還元できることがきっとあるはずだと確信しています。次の歴史を担う後輩たちにも

道は違ってても各々の経験を共有し合い、伝えることができればと思います。

藤野 神経難病の患者さんを診ている私にとって最大の目標は発症を少しでも遅らせ、患者さんのハッピーな時間を増やすこと。また患者さんを支える仕組みについては課題が多くありますが、それでもお一人お一人がご自分らしい生き方できるように尽力すること。そのために研鑽を積んでいくわけですが、ここにもうひとつ、「府立医大の先生に診てもらってよかった」と言っていただけの医師を目指したいとの決意を新たにしました。そして、さっき北本さんも言ったように歴史の一員であるということですね。歴史は紡がれます。私たちの知識や技術も糸のように紡がれ私たちのところに来ました。歴史のある大学にいるということは、こうした意識を持てるチャンスも多いということ。私たちも後輩へ確かなバトンをつないでいかなければならないと思います。

奥田 ありがとう。個々が己の道を進むことこそがこの大学の未来を創ります。「自分の目指す道があること、それを支え助けてくれる人への感謝の気持ちを忘れ

ないこと、誰かに・何かに・どこかに貢献できないかという意識を持ち続けること」。この3つが次の伝統を創るのだと個人的にはそう思っています。昇格100周年を自分の、大学のそして社会の未来を考えるきっかけにいただければこれほどうれしいことはありません。



寺谷 彰太

医学科1年生



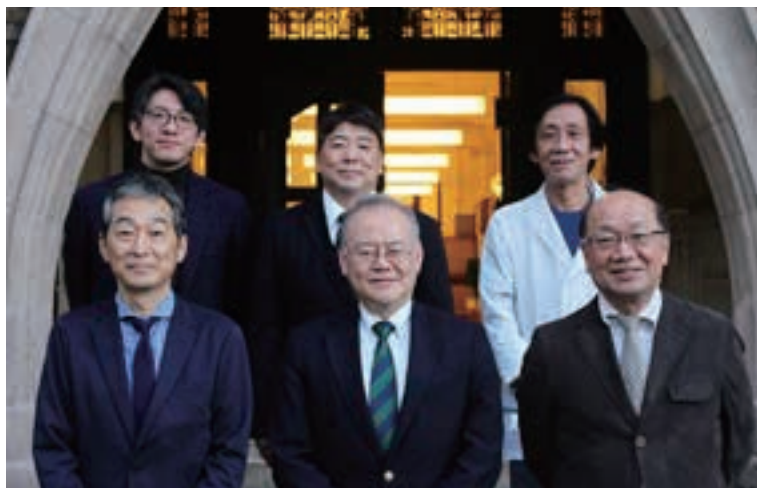
この座談会は2020年10月に収録しました

大学昇格100周年 記念事業準備・実行委員会

いよいよ2021年10月23日(土)に迫った大学昇格100周年記念式典に向けて、記念事業準備・実行委員会を立ち上げ、記念事業や記念式典の準備に取り組んでいます。

11月のある日の会議にお邪魔しました。今日の議題は、100周年記念冊子と記念式典の開催について。記念冊子に盛り込むべきテーマ、創立150周年記念誌との差別化や、学生の皆さんに役立つ記念品の検討など熱い議論が交わされました。記念品候補の実物を見ながら議論したり、学歌を歌ってみたり……どんな記念事業・冊子になるか今から楽しみです。

新型コロナウイルス感染症等の状況を踏まえて、記念式典等の詳細については、決まり次第大学HP、広報誌等でお知らせいたします。



大学昇格100周年記念事業準備・実行委員会の皆さん

上段左から、樽野教授、八木田教授、橋本教授

下段左から、加藤教授、奥田教授(大学昇格100周年記念事業準備・実行委員長)、夜久教授(創立150周年記念事業実行委員長)



大学昇格への歩み

- 1872** 明治5年 11月 療病院を設け、患者治療のかたわら医学生を教育
- 1880** 明治13年 7月 現在地へ療病院を移転
- 1918** 大正7年 12月 大學令交付、国公立大学設置が認められる
- 1919** 大正8年 大学昇格に向けた活動、校友会による基金集め開始
- 1921** 大正10年 1月 昇格承認申請書、必要書類を提出
7月 医学専門学校予科として学生募集開始
10月 大学昇格の正式認可

花園キャンパスに立つライオン像

100周年記念対談で話題に上がったライオン像昇格記念碑、現在の写真がこちらです。碑文には、「大正14年4月 京都府立医科大学期成同盟会建之」と刻まれています。設置から、90年以上がたち少し変色が見られますが、今も花園キャンパスを静かに見守っています。

産学公連携最前線

培養角膜内皮細胞を用いた
水疱性角膜症に対する革新的再生医療

木下 茂(感覚器未来医療学講座)

外園 千恵、羽室 淳爾、上野 盛夫(視覚機能再生外科学)

今井 浩二郎(医療フロンティア展開学)

水疱性角膜症を代表とする角膜内皮障害に対する現在の治療法はドナー角膜を用いた角膜移植術のみです。我々は、ドナー角膜から拡大培養した生体内の角膜内皮細胞と同様の性質を備えた高品質な培養角膜内皮細胞(図1)を前房内に注入することにより角膜内皮組織を再構築させるという革新的医療技術(図2)の臨床研究・医師主導治験を遂行し、世界のフロンランナーとしての認知を得ています。これまで公的研究費として、文部科学省、厚生労働省、日本医療研究開発機構(AMED)から「再生医療実現化ハイウェイ」、「再生医療実用化研究事業」、「再生医療の産業化に向けた評価基盤技術開発事業」、「AMED技術開発個別課題」の各事業としておよそ総額13億円の支援を受け、この革新的再生医療を社会実装させるべく、2011年から精力的に研究を行ってきました。現在は、京都府立医大から角膜内皮再生医療の基本技術に関わるライセンスを取得した薬事承認申請予定企業であるコーニアジェン・ジャパン社(CorneaGen Inc.は本社を米国シアトル市に置く)がこの再生医療等製品の申請準備を進めています。本製品の製法

開発、製造などは住友化学と大日本住友製薬の合併会社であるS-RACMO(株)が受託して行う予定です。さらに米国、欧州での臨床試験も視野に入れており、我々はCorneaGen Inc.、大日本住友製薬との連携のもと、さらなる研究に取り組んでいるところです。

再生医療等製品の製品開発には、Cell Processing Center(CPC)が必須となります。本学のCPCは、2005年に井端泰彦元学長の肝いりで新築整備され、PMDAの査察により許可を受けた施設(施設番号:FA5150005)であり、現在に至るまで休止することなく現役で稼働しています。前述のコーニアジェン・ジャパン社は、本学と共同研究契約を締結してCPCを活用しています。

革新的医療技術をアカデミアから新たに世に送り出すことは至難の業ですが、本事業は本学の歴代学長ならびに全学の温かいサポートにより完遂出来つつあります。産学公連携の成功例の一つとして社会還元が出来ることを願っています。

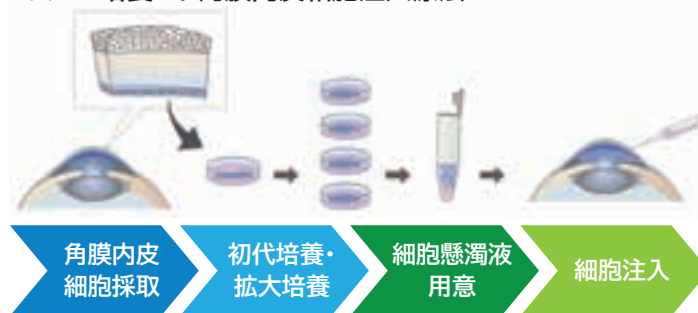
関係する出願済特許一覧

1. 角膜内皮細胞接着促進剤	WO2009/028631(2009/3/5)
2. 角膜内皮細胞の培養正常化	WO2013/100208(2013/7/4)
3. 角膜内皮細胞マーカー	WO2015/016371(2015/2/5)
4. ラミニンの角膜内皮細胞培養への応用	WO2015/080297(2015/6/4)
5. ヒト機能性角膜内皮細胞およびその応用	WO2017/141926(2017/8/24)

<図1> 培養ヒト角膜内皮細胞



<図2> 培養ヒト角膜内皮細胞注入療法



*Minimal Invasive Surgeryで、歪みのない、完全な透明角膜を再現
*若年者由来の老化の少ない高機能細胞を多量に用いることが可能

掲載論文 | 1: N Engl J Med. 2018 Mar 15;378(11):995-1003. doi: 10.1056/NEJMoa1712770.
2: Ophthalmology. 2020 Sep 5;S0161-6420(20)30853-8. doi: 10.1016/j.ophtha.2020.09.002.

「医者への在り方はさまざま。ぜひ広い視野で捉えてほしい」

宇治市長 松村 淳子さん



プロフィール

1983年卒業、小児科医として10年間府内病院等に勤務した後、1994年京都府へ入庁。京都府宇治保健所の勤務を始め、家庭支援総合センター所長や、こども政策監を歴任、2015年から京都府健康福祉部長。2020年12月の宇治市長選挙で初当選。

今も心に残る言葉、「やぶ医者になれ」

学生時代、一分一秒でも早く人の命を助けられる医者になりたいと考えていました。そして救急外来も多い小児科の道へ。子どもが大好きでし、子どもの笑顔はやはり社会の宝であると思いましたので。以来、「子どもが安心して心身ともに健やかに暮らせる社会を作る」ことが私の仕事の主要なテーマとなりました。

10年間、小児科医として府内病院に勤務したあと、「病気を治療する側から予防する仕組みを作る側」になることを目指し、27年前、京都府職員に転職。昨年には宇治市長選に立候補したわけですが、このような人生の転機にいつも思い出すのは、入学式で当時の佐野豊学長がおっしゃった「やぶ医者になれ」という言葉。やぶ医者にはいいイメージはありませんが、「藪はわずかな風にもなびく、そのわずかな風、病気でいうならわずかな症状も見逃してはならない。そして風が吹いても藪は決して倒れない」、と話されました。藪は強い風が吹いて一見折れたように見えても起き上がるそうです。「やぶ医者になれ」を胸に、私自身、風や時の流れの変化に対応してやるべきことをやる、をモットーとしてきました。

振り返れば、私が学生の頃は1学年に対して女子学生は1割ほどというのが普通でしたが、私たちの学年は2割ほどいまして、それだけで「華やかな世代」と言われました(笑)。でも服装は華やかでもどの学生も芯が通っていて個性的で、当時は女性が選択する診療科は決まっていまいがちでしたが、見事に別々の診療科に行きました。私も刺激を受けたことはいまでもなく、初めて小児科の教室に行ったとき、「女性として扱っていただかなくて結構ですから入っていいですか？」と聞いたことを覚えています。まさに隔世の感がありますね。

一人の医者として行政でできることを

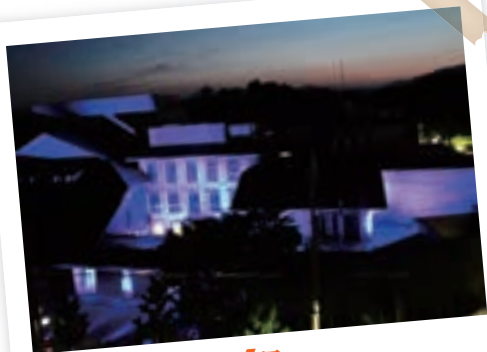
昨年12月、宇治市長に就任しました。京都府職員として初の任務地が宇治保健所(現在の山城北保健所)でしたので不思議なご縁を感じます。これからコロナ対策はいまでもなく、宇治のネームバリューを生かし「輝く宇治」を目指して、市民のみなさまと共に歩んでいきたいと思っています。

すっかり長い間、行政の場にいますけれども、私は紛れもなく一人の医者です。医療の現場で得た知識や経験を持って、人々の心身の健康を守りたいと考えてきました。医者にはさまざまなかたちがあります。みなさんもぜひ、医療を広い視野で考えてほしいと思います。そのためには勉強しなくてはいけません、心と目を開いて地域や人をしっかり見なくてはいけません。そうしたことを意識して学生時代を過ごしていただきたいと思います。そして、それぞれのやり方で、医者として社会に貢献していけるよう願っています。



写真で見る京都府立医科大学 2020

大学HPにて今週の1枚を紹介し、四季折々の大学の様子や最新の動きを写真でお伝えしています!今回は、その中からいくつかの写真をピックアップして、新型コロナウイルス対策だけではない2020年の京都府立医科大学の動きを振り返ります。



5月

ブルーライトアップ

5月12日「看護の日」にあわせて、河原町通りを挟んで向こう側の京都府立文化芸術会館で、ブルーライトアップが行われました。最前線の医療従事者の方への感謝を込めて、文化芸術会館で舞台芸術を手がけている業者の皆さんがボランティアで実施してくださったとのこと。

広小路キャンパスに史跡お土居址?

広小路キャンパスにまつわる「今週の1枚」が届けられました。お土居の記念碑がツツジに囲まれて美しくたたずんでいます。場所は河原町沿い図書館の北側です。皆様はご存じでしたか?

よく見ると京都府立医科大学創立125周年記念事業実行委員会とあります。いよいよ150周年記念事業の学内公募も始まりました。何が選ばれるかわくわくしますね。記念事業の公募結果は裏表紙をご覧ください!



6月



9月

京都4大学*の連携進む。 お茶と文化と健康に関わるシンポジウム開催

京都4大学連携の一環として、8月28日に京都学・歴彩館でお茶の文化と健康に関わるシンポジウムが開催され、京都府知事、竹中学長、塚本府立大学学長の間で活発な議論が行われました。写真にはないですが、裏千家前家元 千玄室大宗匠にも御講演をいただきました。

※4大学…京都府立医科大学、京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都薬科大学

シンガポール国立大学協定締結

本学の協定校に新たにシンガポール国立大学が加わりました! 締結の記念にスクリーンショットで写真を1枚。当初は現地の訪問を予定していたのですが、新型コロナ拡大の影響を受けて断念しました。オンラインでの協定締結となりましたが、オンラインでも今後の交流について議論を深めることができました。早く対面でお会いできる日がやってくるように……。



12月

その他の写真は、本学HP「今週の1枚」のページに掲載しています。

学内向けメールマガジン配信に合わせて2週間に1度更新しますのでお楽しみに!

URL: <https://www.kpu-m.ac.jp/doc/newsletter/weeklyphoto.html>



ふるさと納税による御寄附に係る 寄附者銘板の設置について

2020年12月に本学附属病院1階の正面玄関エレベーター横に寄附者銘板を設置しました。

2022年に創立150周年を迎えます本学では、更なる教育・研究活動等の充実を図り、創立150周年記念事業を実行していくため、皆様からのふるさと納税による御寄附で構成する京都府公立大学法人未来づくり応援事業基金を設けています。

この間、本基金に多くの方から御寄附を頂戴しており、皆様からの温かい御支援に心からお礼を申し上げますとともに、本基金に多額の御寄附で貢献いただいた方を末永く顕彰するため、本銘板に御芳名を掲示させていただいております。

引き続き広く御寄附を募っていますので、今後とも格別の御支援を賜りますようお願いいたします。

銘板への掲示基準等

- 寄附累計額が100万円以上の個人寄附者様の御芳名を寄附累計額に応じた色の銘板に記し、掲示します。なお、公表を希望しない場合は、掲示しないこともできます。

ゴールド:1,000万円以上 シルバー:300万円以上 ブロンズ:100万円以上

- 基本、毎月銘板の掲示を更新していく予定です。

寄附者銘板写真

設置場所:附属病院1階正面玄関エレベーター横



創立150周年記念事業に向けた 寄附のお願い

京都府立医科大学は、「世界トップレベルの医学を地域へ」を目指し、京都府のふるさと納税制度を用いた個人寄附金を募集しております。

ふるさと納税及び創立150周年記念事業に関する詳細は下記ホームページを御覧ください。

ふるさと納税ホームページ(京都府HP)

<https://www.pref.kyoto.jp/fu-daigaku/news/furusato.html>



創立150周年記念事業特設サイト(大学HP)

<https://150th.kpu-m.ac.jp/>



創立 150 周年に向けて

記念事業企画提案募集 表彰式開催

学内で募集を行なっておりました記念事業企画提案募集には、教職員、学生等から計18件の提案をいただきました。ご提案いただいた皆様、ありがとうございます！

記念事業実行委員会にて選考を行ない、最優秀賞1点、優秀賞2点、特別賞5点を選定、1月6日に表彰式を行ないました。

今後は、記念事業実行委員会にて企画の具体化に向けた検討を進めます。



受賞企画一覧 ※詳細は150周年記念事業HPをご覧ください

賞	提案タイトル
最優秀賞	150周年記念映画作成
優秀賞	創立150周年記念出版プロジェクト
優秀賞	京都府立医科大学創立150周年記念インタビュー
特別賞	次世代イントラネットを使用した希少手術・高難易度手術・カテーテル治療のライブ送信システムおよび仮想現実／拡張現実に対応した高機能視聴覚システム整備事業
特別賞	府立医科大学バーチャル ヒストリーミュージアム
特別賞	京都府立医科大学ミュージアム(仮称)開設
特別賞	附属病院の病院案内の多国語(主に英語)表記・ピクトグラム整備
特別賞	「がん教育」京都モデルの開発事業



表彰式に出席いただいた受賞者で集合写真、北部医療センターからも参加いただきました。



最優秀賞を受賞した浮村先生と夜久実行委員長

150周年広報バナー
作成しました！

150周年記念事業機運醸成のため、バナースタンドを作成しました。

現在、河原町、広小路、下鴨の各キャンパス、病院内の計10カ所に設置しております。大学にお立ち寄りの際は是非ご覧ください。